

『椿展』

場所 清羽亭 時間 9時30分～16時

企画・展示 葵カメリアソサエティー 協力 前田ナーセリー

かつて子供たちは、椿の花に千代紙の着物を着せ、椿雛を作って遊びました。そこで今年も、白鳥庭園・清羽亭一の間の大床に椿花を用いての「ひいな」の段飾りを再現させました。ぜひ椿花の寿ぎと雅をお楽しみください。

また同会場では、江戸時代の古典品種から現在の銘花椿を切り花や鉢物で鑑賞いただけます。

華麗な椿の世界を楽しみましょう。

江戸時代に製作された椿の図譜なども展示します。

展示会場では、椿市を開設しています。

多くの鉢植え椿は、茶花用の佐助や古今の銘椿が中心で、

これらの苗木の中から好みの椿をお求めいただけるのも、

この椿市ならではの楽しみです。



『椿市』 珍しい椿の即売会

時間▶9時30分～16時

場所▶清羽亭

協力▶前田ナーセリー / せせらぎ園芸 / 葵カメリアソサエティー



『椿物語』 ツバキは不吉、などと誰がいった?』

葵カメリアソサエティー会長 横内茂氏によるギャラリートーク

古代の日本人は、冬季、常盤木のツバキが忽然と花を付ける不思議に対し、春の神が降臨した現象だと考えました。目出度い神宿る樹木だったので。

ツバキは、日本の春を代表する花木として現在まで愛でられてきましたが、鎌倉時代の一時期に限り、武士階級が落花の様子を不吉として嫌ったのではないかと

の仮説が有ります。幕末、庶民の間で花が落ちるから縁起が悪いと嫌ったともいいます。

しかしツバキが、縁起が悪い不吉な植物であるならば、天皇、將軍などをはじめとして、

様々な階級でツバキが愛でられ寿がれた現象をどのように説明すれば良いでしょうか。

明治に入ると、地方によっては縁起の悪い植物と言われ出し、

代わってサクラが大和魂を象徴する植物に取って代わりました。

ツバキは不吉、などと誰が言ったのでしょうか。

ツバキの不吉を紐解きます。

【植物文化史研究者 横内茂】

植物分類・形態学、民族植物学などを専攻。中国、

ベトナム、ラオス、インド・ヒマラヤなどで

ツバキ類やフロラの調査を行う。

著書に『茶経評解』、『茶花の文化史』、『椿百科』がある。



令和7年 2月8日(土)・9日(日)・11日(火祝)

時間▶13時～14時

場所▶清羽亭 立礼席

定員▶各20名※前売り券については下記を参照

参加費▶1,500円(和菓子と抹茶のセット付き)

椿茶会・ギャラリートーク前売り券販売方法

- A・Bそれぞれの販売枚数が売り切れ次第終了となります。お早めにお買い求めください。
- 日時変更、払い戻しはいたしません。

A 白鳥庭園正門窓口

- 窓口直接購入 1月11日(土)～各席前日まで

白鳥庭園正門窓口までお越しください。

(販売時間 9:00～16:30)

※休園日：毎週月曜日(祝休日の場合は開園、翌平日休園)

※電話でのご予約はできません。

B 名古屋市文化振興事業団チケットガイド

- 予約受付期間

1月15日(水)～1月24日(金)17:00まで

<電話>052-249-9387

<メール>QRコードのリンク先「メール予約」からご予約ください。

- 窓口直接購入 1月15日(水)～1月31日(金)17:00まで



チケット取り扱い

<名古屋市文化振興事業団チケットガイド> TEL052-249-9387 (平日9:00～17:00 / チケット郵送可)

※名古屋市文化振興事業団が管理する文化施設窓口<土日祝日も営業>でもお求めいただけます。

(工事休館などがありますので、事業団ウェブサイトでご確認ください。)



チケット取り扱い施設

徳川園・白鳥庭園 尾張の庭をテーマに行う、座学と現地見学をセットにした講習会です。 名古屋二大庭園講座『尾張の庭』(尾張の名園シリーズ)

全2回

【講師】野村庭園研究所代表 野村 勘治

①徳川園(座学)

3/6(木) 13時～15時30分

②揚輝荘・古川爲三郎記念館(現地講座・昼食付)

3/13(木) 10時～15時 [昼食会場]木曾路 徳川店

【対象人数】25人

【教材費】5,000円(入園・館料、昼食代込み)

【申込締切】2/21(金) 必着

【申込方法】メール(nagoya2teien@gmail.com) または 往復はがき

【問合せ先】白鳥庭園管理事務所 TEL 052-681-8928
※両日出席可能な方の応募をお願いします。
※申込多数の場合は抽選になります。